

m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

国立公文書館	
分類	
	③ ④
配架番号	3 A
	14
	73-5

めくれず

陸軍吉計大佐 阿久津正藏 (阿)

独逸国駐在員

米國人食糧問題ニ関スル調査報告

Report of Investigation regarding Food Problem in America

Nov. 1943

昭和十八年十一月

駐在員報告

7-363

3
Copy
210
47

国立公文書館	
分類	
配架番号	73-5

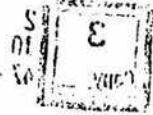
海軍省所蔵文書

海軍省文書

米穀の食糧問題ニ関スル調査報告

昭和十一年十一月

阿久津五計大佐



米穀の食糧問題ニ関スル調査報告

昭和十一年十一月

阿久津五計大佐

第一次世界大戦ニ於テは、他ノ第五年目ニ於テ今迄戦

コノ時期ニ英國ノ食糧補給難ニ至リ、昔々ノ如ク前独逸

ノ食糧不足難ニ敗戦シ、世界大戦ノ閉幕ニ至リ

然レ、今次大戦ニ至リテハ、現在獨逸ノ食糧補給ハ比較的悲

觀的ナラザルニ反シ、米國ノ食糧困難化ヲ視フ、アルハ、前対

象的ニ觀ル時、興味アル事、實トキスニ

在大九軍備拡張、軍需工業ノ發展ヲ強化シ、米國ハ最モ

高次の消費生活一即ち今日人類科其技術限り限り
 へ着いた地球人口極限二達とアトタトハ程一消費一ニ着いた
 高級化の食糧政策一行政の切下とアト行ハルハ其ハ一國
 難球ニ特殊食糧政策一機構等達之ハ関係ニ難点ナリ有
 レ之ハ対策大ノ混乱、又生産部門ノ踏路ノ中一及大ニ農業
 再準備計画ヲ遂行シルニ含ハ金融資本主義ノ独裁者
 ルノカハトハ、價格政策ノ果ニシテ絶対的食糧増産ヲ實現
 現ニ得ルヤ問題等ヲ食糧難中ノ重病果トシテアトハ其ハ
 夫レ吾人ノ関心ヲ得スルニ極大ニ重要ナルモノナリ

1. 戦時下の日本経済の概観
 2. 戦時下の日本経済の概観
 3. 戦時下の日本経済の概観
 4. 戦時下の日本経済の概観
 5. 戦時下の日本経済の概観
 6. 戦時下の日本経済の概観
 7. 戦時下の日本経済の概観
 8. 戦時下の日本経済の概観
 9. 戦時下の日本経済の概観
 10. 戦時下の日本経済の概観

場合の比に豊富にして給養を度くし至るも亦有力なる

甲ノ下

更に既述組織の拙劣たる事あり、一、二、大市場の非常なる物

資の乏乏を生ずるに至り、次に戦時食糧の買占が逐次現はるる

至るに困難の益甚たるカラレタリ、加之更に閉鎖取引の量

猛烈に増加せり、林業止時代より、アルモノの常輸入品への食糧閉鎖

取引の新に開始せり、閉鎖取引の品物の特肉砂糖ニ至るは實に

土等の極少量より大量に至る迄の *Meatlegging* *legging* が

既一新の標語となし、至るに斯くて正當に食糧供給供給

④

2. 禁煙の統制として 1917年 - 禁煙法 (Prohibition of Opium Act)
 1918年 - 禁煙法 (Prohibition of Opium Act)
 1919年 - 禁煙法 (Prohibition of Opium Act)
 1920年 - 禁煙法 (Prohibition of Opium Act)
 1921年 - 禁煙法 (Prohibition of Opium Act)
 1922年 - 禁煙法 (Prohibition of Opium Act)
 1923年 - 禁煙法 (Prohibition of Opium Act)
 1924年 - 禁煙法 (Prohibition of Opium Act)
 1925年 - 禁煙法 (Prohibition of Opium Act)
 1926年 - 禁煙法 (Prohibition of Opium Act)
 1927年 - 禁煙法 (Prohibition of Opium Act)

ハの痛手ヲ被ラレルハカラキルコトナキ
 〇禁止時、ハ、ア、ル、コ、ト、ル、密、輸、入、者、ト、ボ、ト、レ、ル、コ、ト、ナ、キ
 No. Logging, Sugar Logging ハ、内、密、輸、入、者、ト、ボ、ト、レ、ル、コ、ト、ナ、キ
 2) 米、國、ハ、内、賣、者、ナ、ン、バ、ウ、ン、ト、ト、レ、ル、コ、ト、ナ、キ
 3) ハ、内、賣、者、ト、ボ、ト、レ、ル、コ、ト、ナ、キ
 4) 10%ハ、内、賣、者、ト、ボ、ト、レ、ル、コ、ト、ナ、キ
 5) ハ、内、賣、者、ト、ボ、ト、レ、ル、コ、ト、ナ、キ
 6) ハ、内、賣、者、ト、ボ、ト、レ、ル、コ、ト、ナ、キ
 7) ハ、内、賣、者、ト、ボ、ト、レ、ル、コ、ト、ナ、キ
 8) ハ、内、賣、者、ト、ボ、ト、レ、ル、コ、ト、ナ、キ
 9) ハ、内、賣、者、ト、ボ、ト、レ、ル、コ、ト、ナ、キ
 10) ハ、内、賣、者、ト、ボ、ト、レ、ル、コ、ト、ナ、キ

②
 1943年、米穀統制法(昭和十八年法律第六十号)が公布された。これは、戦時体制下の食糧配給を確保するために、米穀の生産、流通、消費を全面的に統制するものである。この法律は、米穀の生産額、流通額、消費額をそれぞれ定め、それに基づいて配給量を決定する。また、米穀の価格は政府が定める。この法律は、戦時体制下の食糧配給を確保するために、米穀の生産、流通、消費を全面的に統制するものである。

予、前掲の如く、米穀統制法(昭和十八年法律第六十号)は、戦時体制下の食糧配給を確保するために、米穀の生産、流通、消費を全面的に統制するものである。

①
 米穀統制法(昭和十八年法律第六十号)は、戦時体制下の食糧配給を確保するために、米穀の生産、流通、消費を全面的に統制するものである。この法律は、米穀の生産額、流通額、消費額をそれぞれ定め、それに基づいて配給量を決定する。また、米穀の価格は政府が定める。この法律は、戦時体制下の食糧配給を確保するために、米穀の生産、流通、消費を全面的に統制するものである。

②

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or report. The text is written vertically and is mostly illegible due to fading and the style of the handwriting.

而之ノ生産的ノ全部ニ及ハスレテ之ヲ市場調整ニ導カントス
ルノハ不可能事ニ屬ス^甚ルニシテ生産的ニ對シ生産者ヨリ消
費者ニ至ル迄總テヲ包括セル定率ナル切符割當制組織ヲ
設ケサルハカラズルニシテ然ルニ初メ米國ニ起ルニ如クニ自由類
加切符割當制ヨリ除カレシ結果ノ物ハニ而テ專ニ穀例ニ
事^{ニ至レリ}ノ之ニ至テハ切符割當ナリシ等ノコト生産的ガ特ニ及至ラザ
ルハ事實實例ノ不ス如キナリ

米國ノ食糧的市場ノ價格ハ公定及價格監督ノ不ナリ
タメニ困難ヲ甚クシカラシタリ例ヘハ價格ハ地方ニ依リ

一、米の生産者に対する公定価格の決定
 米の生産者に対する公定価格の決定は、米の生産者
 の利益を保護し、消費者の利益を保護する
 ためである。米の生産者に対する公定価格の決定
 は、米の生産者の利益を保護し、消費者の利益を
 保護するためである。米の生産者に対する公定価格
 の決定は、米の生産者の利益を保護し、消費者の
 利益を保護するためである。米の生産者に対する公
 定価格の決定は、米の生産者の利益を保護し、消
 費者の利益を保護するためである。米の生産者対
 する公定価格の決定は、米の生産者の利益を保護
 し、消費者の利益を保護するためである。米の生
 産者に対する公定価格の決定は、米の生産者の利
 益を保護し、消費者の利益を保護するためである。

米の生産者に対する公定価格の決定は、米の生産
 者の利益を保護し、消費者の利益を保護するため
 である。米の生産者に対する公定価格の決定は、
 米の生産者の利益を保護し、消費者の利益を保護
 するためである。米の生産者に対する公定価格の
 決定は、米の生産者の利益を保護し、消費者の利
 益を保護するためである。米の生産者に対する公
 定価格の決定は、米の生産者の利益を保護し、消
 費者の利益を保護するためである。米の生産者対
 する公定価格の決定は、米の生産者の利益を保護
 し、消費者の利益を保護するためである。米の生
 産者に対する公定価格の決定は、米の生産者の利
 益を保護し、消費者の利益を保護するためである。

米穀の供給は、米穀の生産者から消費者へ直接に供給されるのではなく、米穀の生産者から米穀の輸出業者へ供給され、米穀の輸出業者から米穀の輸入業者へ供給され、米穀の輸入業者から米穀の消費者へ供給される。

米穀の供給は、米穀の生産者から消費者へ直接に供給されるのではなく、米穀の生産者から米穀の輸出業者へ供給され、米穀の輸出業者から米穀の輸入業者へ供給され、米穀の輸入業者から米穀の消費者へ供給される。

米穀の供給は、米穀の生産者から消費者へ直接に供給されるのではなく、米穀の生産者から米穀の輸出業者へ供給され、米穀の輸出業者から米穀の輸入業者へ供給され、米穀の輸入業者から米穀の消費者へ供給される。

米穀の供給は、米穀の生産者から消費者へ直接に供給されるのではなく、米穀の生産者から米穀の輸出業者へ供給され、米穀の輸出業者から米穀の輸入業者へ供給され、米穀の輸入業者から米穀の消費者へ供給される。

結果が不足高の市場より駆逐し開取引が成立する
 目的は各自の供出義務觀念、鉄加が斯ル不行為の本質
 質の容易さラシキナリ

此不足及開取引ハ米國ノ食糧供給特別機構カ也ニ平傳
 ハリスハ~~新米著シク~~昂進ヤリリシナラハ即米國ニアリキ人他ノ
 國ニ例ヲ見ル程罐詰高的ニ榮養食基礎ヲ遺ヤリ
 罐詰技術ヲ於テ人米國ハ全世界ノ指導的地位アリ在リテ
 米國ニアル肉、魚、野菜乃至果實ヲ罐詰ノ形ニスルカキハ
 米國ノ榮養經濟上特ニ重要ナル役割ヲ演ズルモノナリハナリ

⑨

④
 1970年代後半から1980年代前半にかけての日本経済の急激な成長は、食料の需要増大を招いた。この時期、日本は食料自給率の低下を懸念し、食料安全保障の観点から、食料の生産・流通・消費の各段階において、政府による規制や補助を実施した。特に、食料の生産においては、生産者の所得安定を図るため、価格規制や生産調整が行われた。また、食料の流通においては、流通コストの削減や流通効率の向上が図られた。そして、食料の消費においては、消費者の健康や食生活の多様化を促進するため、栄養指導や食生活改善運動が行われた。

印肉、林檎、及野菜、冷蔵貯蔵の形をとり、力強い南米産食糧品を
 保存するに極力容易な一例として、若くは市場流通の大半を
 担うことを見れば、米国の先進国への林檎の一年以上の果物生産
 鮮凍冷蔵庫を保存するに、^{何層}困難なうえ、米国の家庭
 への冷蔵貯蔵品の依存レベルが、冷蔵貯蔵市場の多岐にわたる
 上能ハルニ至ルハ、非市場に真似し、^概結障壁を有スルニ至ルハ
 上ハ、^大都市と大都市と小都市、且、^大都市と小都市との
 二重影響が及ぶスルニ至リ、米国の非市場に、^大都市と小都市との
 農場と有ル畜牛と、得ル者スラ、^大都市と小都市との、^大都市と小都市との

1941 11 20%
 1942 11 20%
 1943 11 20%

一、同盟国への食糧供給の増大は、戦時体制の強化と、戦時体制の維持に必要である。戦時体制の強化は、戦時体制の維持に必要である。戦時体制の維持は、戦時体制の強化に必要である。戦時体制の強化は、戦時体制の維持に必要である。

卯

二五乃至三〇%

乾酪

四〇乃至五〇%

果實及野菜類 二〇乃至五〇%

本邦産品の五四三年の輸入米の材料に依り

茲に留意すべき同盟国への供給の絶対的強制による減量
 の許されるべきに如く、同盟国への食糧の輸入に困難が生ずる
 之を戦後にもたらすべく、おつたスプリングの食糧會議を利用し、
 米國の食糧の輸送量を増加せしめ、如く如く強調せり
 米國の輸出せしめ食糧の約二千人の米及び二足に量より推
 算せらるり、米國より斯く莫大に輸出し、米國の栄養
 標準を下し、米國の報告三人の約一五%に依り、可能に

⑬

穀類	1,474	1,774
畜産物	1,174	1,174
雑穀	1,174	1,174
油脂	1,174	1,174
糖類	1,174	1,174
豆類	1,174	1,174
野菜	1,174	1,174
果物	1,174	1,174
魚介	1,174	1,174
その他	1,174	1,174
合計	1,174	1,174

1939年10月1日現在
 1939年10月1日現在
 1939年10月1日現在
 1939年10月1日現在

1939年10月1日現在

1939年10月1日現在

1939年10月1日現在

1939年10月1日現在

乾酪	27	27
油脂	77	77
其他脂肪	54	54
再製菓	14	14
パン小麦粉	10	10
生野菜	11	11
罐詰野菜	11	11
乾燥果実	11	11
罐詰果実	11	11
果汁	11	11
合計	277	277

新々地予國內生産より總補給量中より一ヶ所平時平

均消費量以上を要する國內及海外の兵力に對する補給量並

貿易供給量を購入するに必要

1939年10月1日現在

⑤

1914年11月15日、米穀相場急落、米穀相場暴落、米穀相場暴落

1914年11月15日

米穀相場暴落、米穀相場暴落、米穀相場暴落

米穀相場暴落、米穀相場暴落

米穀相場暴落、米穀相場暴落、米穀相場暴落

米穀相場暴落、米穀相場暴落

米穀相場暴落、米穀相場暴落、米穀相場暴落

米穀相場暴落、米穀相場暴落、米穀相場暴落

米穀相場暴落、米穀相場暴落、米穀相場暴落

リ即ち罐詰乳ハ凡ソ七種類ニ涉リ、乾燥乳、卵製乳、液
物及粉状品共、果物シテ、野菜汁、在果汁、果物及野菜
ノ罐詰、塩詰及乾燥品、肉及果ノ罐詰、貝類罐詰、即席
スル及即席品、食料等、總數約十種ニ涉リ、各種ノ製法ハ
及リ、斯種ノ切符割當制ハ米國ノ家庭ニ取リテ、ノ、経済
生活上ニ深刻ナル影響ヲ及ブ、~~政策~~見込~~ル~~也、
米國一九〇三年三月十五日、エノニスト誌、切符割當
制理人、似テ、~~リ~~、~~ト~~、~~ハ~~、~~宜~~、~~ナ~~、~~リ~~、~~特~~、~~ニ~~、~~大~~、~~ナル~~、~~シ~~、~~コ~~、~~ソ~~、~~ク~~、~~テ~~、~~起~~、~~ル~~、
ルハ甚難類ヲ同時ニ切符割當トシタル、~~米國~~、~~ノ~~、~~甚~~、~~シ~~、~~米國~~、~~ノ~~、~~切~~、~~符~~、~~割~~、~~當~~、~~ト~~、~~シ~~、~~タル~~、
⑦

一、戦時下の食料配給制による消費の抑制
 二、戦時下の食料配給制による消費の抑制
 三、戦時下の食料配給制による消費の抑制
 四、戦時下の食料配給制による消費の抑制
 五、戦時下の食料配給制による消費の抑制
 六、戦時下の食料配給制による消費の抑制
 七、戦時下の食料配給制による消費の抑制
 八、戦時下の食料配給制による消費の抑制
 九、戦時下の食料配給制による消費の抑制
 十、戦時下の食料配給制による消費の抑制

食料配給制に依り脂肪消費の節限ハ現在ハ平時消費の約一五%
 ナリ然レ共是ニ脂肪消費ノ圧迫ハ強化スルニスト豫想スラレ
 リ蓋シ較入ノ縮減ハ豫想以上ニ其スレク貯蔵ノ蓄シク食料
 三且国内脂肪生産量ノ不足ヲ補フカト能ハサル状態ニアル
 カ故ナリ

ハタシ製造ノ多ク牛乳ノ節減ノ多クニアイスクリームノ製造量ハ一九四
 二年製造量ノ五五%ニ切下ケルヘラサレシ状況アリアイスクリ
 ームハ半回率差~~消費~~消費面ニ於テ大ナル役割ヲ廣シアルモノナル
 カ故ニ消費制限ハ半回ニ取リテハ非常ナル深刻ノ処置ト

1. 食糧の消費量は、戦前と戦後とを比較すると、戦後は戦前よりも減少している。これは、戦時中の食糧配給制によるものである。

2. 戦時中の食糧配給制は、国民の健康と生活に大きな影響を与えた。食糧不足による栄養失調や、食糧の配給不足による生活の困窮が、戦時中の大きな問題であった。

3. 戦後の食糧消費量は、戦前よりも増加している。これは、戦後の食糧増産と、国民の生活の安定によるものである。

4. 戦後の食糧消費量は、戦前よりも増加している。これは、戦後の食糧増産と、国民の生活の安定によるものである。

見北八千九百

米回食糧中符割消費量 (昭和三年住民三万七千)

ハチ	六八
マルカリン夏地	五八
豚脂	一八
計	五三
肉	三三
乾酪	二七
家庭用砂糖	一一
コーク	一八
糖詰(各種)	三九
大豆	七五
代用コーク	七五
カネ	五〇
コーク	五〇

(合食用砂糖消費量、約半々) (乳、卵、肉、魚、果、菜、果、汁、其他)

何と平時消費量に對しては、トス

1910年
 1911年
 1912年
 1913年
 1914年
 1915年
 1916年
 1917年
 1918年
 1919年
 1920年
 1921年
 1922年
 1923年
 1924年
 1925年
 1926年
 1927年
 1928年
 1929年
 1930年
 1931年
 1932年
 1933年
 1934年
 1935年
 1936年
 1937年
 1938年
 1939年
 1940年
 1941年
 1942年
 1943年
 1944年
 1945年
 1946年
 1947年
 1948年
 1949年
 1950年
 1951年
 1952年
 1953年
 1954年
 1955年
 1956年
 1957年
 1958年
 1959年
 1960年
 1961年
 1962年
 1963年
 1964年
 1965年
 1966年
 1967年
 1968年
 1969年
 1970年
 1971年
 1972年
 1973年
 1974年
 1975年
 1976年
 1977年
 1978年
 1979年
 1980年
 1981年
 1982年
 1983年
 1984年
 1985年
 1986年
 1987年
 1988年
 1989年
 1990年
 1991年
 1992年
 1993年
 1994年
 1995年
 1996年
 1997年
 1998年
 1999年
 2000年
 2001年
 2002年
 2003年
 2004年
 2005年
 2006年
 2007年
 2008年
 2009年
 2010年
 2011年
 2012年
 2013年
 2014年
 2015年
 2016年
 2017年
 2018年
 2019年
 2020年
 2021年
 2022年
 2023年
 2024年
 2025年
 2026年
 2027年
 2028年
 2029年
 2030年
 2031年
 2032年
 2033年
 2034年
 2035年
 2036年
 2037年
 2038年
 2039年
 2040年
 2041年
 2042年
 2043年
 2044年
 2045年
 2046年
 2047年
 2048年
 2049年
 2050年
 2051年
 2052年
 2053年
 2054年
 2055年
 2056年
 2057年
 2058年
 2059年
 2060年
 2061年
 2062年
 2063年
 2064年
 2065年
 2066年
 2067年
 2068年
 2069年
 2070年
 2071年
 2072年
 2073年
 2074年
 2075年
 2076年
 2077年
 2078年
 2079年
 2080年
 2081年
 2082年
 2083年
 2084年
 2085年
 2086年
 2087年
 2088年
 2089年
 2090年
 2091年
 2092年
 2093年
 2094年
 2095年
 2096年
 2097年
 2098年
 2099年
 2100年

茶 五〇%
 煙草 七五%
 アイスクリム 五五%
 砂糖製法 五〇%
 何れも平時消費の量に好むトス

勿論印行其の食糧カラス特ニハニ再發着、鮮乳(罐詰)
 ナルルシ生果、生野菜、卵、果糖肉等也ナリ是ト夫印行無
 シ之等食糧カラスニハニ神結ナレトト夫フテ得ス例ハハ多
 シ却テ市而モ得成地ス夫目下ニ再發着ノ著シト不足ノ者トヤ
 リヤニヨクノ如キハ普通ニハ豊産ニシテ苦ノ再發着ハ印行
 無シト取引ニテ人金然購入スルトテ得ス唯開ノニ依ル外ナキ
 實情ニハ等ハ好例ナリ

1. 戦前戦中戦後の食糧消費量の推移
 2. 戦前戦中戦後の食糧消費量の推移
 3. 戦前戦中戦後の食糧消費量の推移
 4. 戦前戦中戦後の食糧消費量の推移
 5. 戦前戦中戦後の食糧消費量の推移
 6. 戦前戦中戦後の食糧消費量の推移
 7. 戦前戦中戦後の食糧消費量の推移
 8. 戦前戦中戦後の食糧消費量の推移
 9. 戦前戦中戦後の食糧消費量の推移
 10. 戦前戦中戦後の食糧消費量の推移

上述の消費量は表に依り現在米国の食糧消費量に
 大抵の差別を有するに似て然し夫れは注意すべき事として職業
 上の差別を考慮し平均点を以て特長を長時間に亘り重労働
 等に對する耐性も亦考慮す

開戦前平均米国の食糧消費量
 年一人当り
 米 九〇
 小麦 五〇
 大豆 五〇
 砂糖 五〇
 果物及南方産果物 約八〇
 野菜 約八〇
 飲用乳 一五〇

食糧
 穀類
 肉類
 魚類
 油脂
 砂糖
 食料
 嗜好品
 雑糧
 飼料
 工業用
 其他

1937年
 1938年
 1939年
 1940年
 1941年
 1942年
 1943年
 1944年
 1945年

1937年
 1938年
 1939年
 1940年
 1941年
 1942年
 1943年
 1944年
 1945年

1937年
 1938年
 1939年
 1940年
 1941年
 1942年
 1943年
 1944年
 1945年

1937年
 1938年
 1939年
 1940年
 1941年
 1942年
 1943年
 1944年
 1945年

穀類 二、七
 ハター 七、七
 豚脂 五、〇
 マルガリン及シヤ油類 八、〇
 食料脂肪(計) 一、三
 肉(屠殺脂肪を含む) 約五、〇
 魚 四、〇
 コーヒー 七、一
 茶 〇、三
 カカオ 〇、三
 煙草 四、一

(註) 一九三七年ハ、一九四〇年(一九四二年六月まで) Wollenbercht
 ナーレが一九三九年迄ハ、軍需局長が、一頁ト一頁
 費増加シ上揚ノ如ク、二、三好トナリ

以上掲ケル如キ数字ヲ以テシテハ、戦前ト戦時下ト、米、食糧状態
 了、敵密ニ比較スル困難ナリト、雖不足食糧ニアリテハ、平均平時

消費量ト比較スルニ今日迄ノ栄養状態ハ
 甚シク低下シテハ明ニ示シテ之ハ他ノ食糧特ニパン馬鈴薯
 家畜等ヲ多量食用スルニ依リテ部分的ニ補得ルニ過キス
 病中消費在迫ニ甚クシテ人ノ脂肪肉及砂糖ナリ脂肪ナリ
 人特ニバター及乾酪ノ消費ヤ甚クシク肉ニテ人特ニ豚肉
 及罐詰肉ノ欠乏甚クシク西者ハ其ニ輸出セラレアリシナリ
 砂糖消費ノ在迫ハ最長甚クシキナリ米國ノ平時ニ於テハ
 消費量ハ年々人當約五〇斤ニシテ獨逸ノ二五斤ニ比シ倍量
 ノ消費シアリナリ日本ノ一五斤ニ比シ三倍以上ノ戰時下ノ人當

消費量ト比較スルニ今日迄ノ栄養状態ハ
 甚シク低下シテハ明ニ示シテ之ハ他ノ食糧特ニパン馬鈴薯
 家畜等ヲ多量食用スルニ依リテ部分的ニ補得ルニ過キス
 病中消費在迫ニ甚クシテ人ノ脂肪肉及砂糖ナリ脂肪ナリ
 人特ニバター及乾酪ノ消費ヤ甚クシク肉ニテ人特ニ豚肉
 及罐詰肉ノ欠乏甚クシク西者ハ其ニ輸出セラレアリシナリ
 砂糖消費ノ在迫ハ最長甚クシキナリ米國ノ平時ニ於テハ
 消費量ハ年々人當約五〇斤ニシテ獨逸ノ二五斤ニ比シ倍量
 ノ消費シアリナリ日本ノ一五斤ニ比シ三倍以上ノ戰時下ノ人當

1. 砂糖の消費量は、1930年代前半にピークを達し、その後徐々に減少傾向にある。これは、戦時体制下の食糧配給政策によるものである。

2. 砂糖の生産は、主に植民地からの輸入に依存している。戦時体制下では、自給率の向上が求められた。

3. 砂糖の消費は、主に家庭用と工業用に分類される。戦時体制下では、工業用の消費が制限された。

4. 砂糖の消費量は、戦時体制下の食糧配給政策によって大きく影響を受けた。

1. 嗜好品の消費量は、戦時体制下の食糧配給政策によって大きく影響を受けた。

2. 砂糖の消費量は、戦時体制下の食糧配給政策によって大きく影響を受けた。

食糧配給政策による砂糖消費の状況

砂糖

平時に於ける米国の砂糖消費量は、約三分の一を海外より輸入に依存してゐた。戦時体制下の影響を受け、米国の砂糖生産は特許を得た。

1930年代前半及び一九三九年、砂糖の消費量は、戦時体制下の影響を受け、米国の砂糖生産は特許を得た。

戦時体制下の影響を受け、米国の砂糖生産は特許を得た。

米の消費 (1950年) (1,000,000 tons)

米の消費 (1950年) (1,000,000 tons)

米の消費 (1950年) (1,000,000 tons)

米の消費 (1950年) (1,000,000 tons)

米の消費 (1950年) (1,000,000 tons)

米の消費 (1950年) (1,000,000 tons)

米の消費 (1950年) (1,000,000 tons)

米の消費 (1950年) (1,000,000 tons)

米の消費 (1950年) (1,000,000 tons)

地域区分

粗糖値単位
1000 不元

%

外地

ペルー (Peru Rice)

7.8%

インドネシア (Indonesian Rice)

1.3%

ハワイ (Hawaii)

9.0%

フィリピン (Philippines)

2.2%

計

1.3%

その他

1.0%

計

11.3%

計

7.2%

差引純輸入量

4.1%

内貯蔵増減

2.7%

不足需要

3.9%

砂糖生産量は、三ヶ年二即約三〇〇万トンの米国外に特に入ると、
ハダシ及びヒールミンコーン糖の輸入は不足需要、砂糖ハキ

ハダシ及びヒールミンコーン糖の輸入は不足需要、砂糖ハキ

二ハヨリ供給ヲ受ケ得テ一東亞ニ於テハ日本ノ戦勝ニ依リテ
 半島ハシリウピンヲ失ヘリシリウピンハ約一〇〇万及ハテ廢物ヲ年々半
 國ニ神結シテアリ一日本ノシヤハ領ハ半國ニ取リテ直接被害
 ヲ被ラセハシテ蓋シシヤハハ主トシテ東亞及アレアシヤノ力一英領
 向轉出カカリシ故ナリハ口不也以上ヲ云ハルハシリウヨリ重要ナル
 點ハ全然無クナリシニアラザルニテ戰軍ノ多ク著シク制限ヲ受ケ
 下
 斯ル事シカキシ情勢ニ鑑ミ半國ハ砂糖不足要專量ヲ中米特
 ニシヤハシリウ製糖ヲ神セント努メアリコノ地域ニ於テハ砂糖過剩ノ國

日本ノ戦勝ニ依リテ
 半島ハシリウピンヲ失ヘリ
 シリウピンハ約一〇〇万及ハテ
 廢物ヲ年々半國ニ取リテ
 直接被害ヲ被ラセハシテ
 蓋シシヤハハ主トシテ
 東亞及アレアシヤノ力一
 英領向轉出カカリシ故ナリ
 ハ口不也以上ヲ云ハルハ
 シリウヨリ重要ナル點ハ
 全然無クナリシニアラザ
 ルニテ戰軍ノ多ク著シク
 制限ヲ受ケ下
 斯ル事シカキシ情勢ニ鑑
 ミ半國ハ砂糖不足要專量
 ヲ中米特ニシヤハシリウ
 製糖ヲ神セント努メアリ
 コノ地域ニ於テハ砂糖過
 剩ノ國

品名	単位	数量	備考
米	石	1,000	
小麦	石	500	
大豆	石	300	
雑穀	石	200	
砂糖	石	100	
食塩	石	50	
油	石	30	
炭	石	20	
薪	石	10	
その他	石	5	
合計	石	2,480	

此表は昭和十一年の食糧配給表に基き、(昭和十一年の食糧配給表)

米穀配給表
 米穀配給表は、食糧配給の中心となつてゐる。従つて、米穀配給の増減は、國民の生活に直接影響を及ぼす。従つて、米穀配給の増減は、國民の生活に直接影響を及ぼす。

米穀配給表
 米穀配給表は、食糧配給の中心となつてゐる。従つて、米穀配給の増減は、國民の生活に直接影響を及ぼす。従つて、米穀配給の増減は、國民の生活に直接影響を及ぼす。

米穀配給表
 米穀配給表は、食糧配給の中心となつてゐる。従つて、米穀配給の増減は、國民の生活に直接影響を及ぼす。従つて、米穀配給の増減は、國民の生活に直接影響を及ぼす。

米穀配給表
 米穀配給表は、食糧配給の中心となつてゐる。従つて、米穀配給の増減は、國民の生活に直接影響を及ぼす。従つて、米穀配給の増減は、國民の生活に直接影響を及ぼす。

世界食糧の増進と食糧の分配
 食糧の増進は食糧生産の増進と食糧の分配の増進とを意味する。食糧生産の増進は食糧生産力の増進と食糧生産量の増進とを意味する。食糧の分配の増進は食糧の分配の公平化と食糧の分配の増進とを意味する。

食糧の増進は食糧生産の増進と食糧の分配の増進とを意味する。食糧生産の増進は食糧生産力の増進と食糧生産量の増進とを意味する。食糧の分配の増進は食糧の分配の公平化と食糧の分配の増進とを意味する。

食糧の増進は食糧生産の増進と食糧の分配の増進とを意味する。食糧生産の増進は食糧生産力の増進と食糧生産量の増進とを意味する。食糧の分配の増進は食糧の分配の公平化と食糧の分配の増進とを意味する。

生産を増加し、食糧の分配を増進させる。

米生産力の増進と食糧の分配の増進とを意味する。

米園	1950年	1955年	1960年
北中米	3,750,000	5,500,000	7,000,000
大東米	1,000,000	1,500,000	2,000,000
北中米及大東米	4,750,000	7,000,000	9,000,000
北中米	3,750,000	5,500,000	7,000,000
大東米	1,000,000	1,500,000	2,000,000
北中米及大東米	4,750,000	7,000,000	9,000,000

1914-1915
 1915-1916
 1916-1917
 1917-1918
 1918-1919
 1919-1920
 1920-1921
 1921-1922
 1922-1923
 1923-1924
 1924-1925
 1925-1926
 1926-1927
 1927-1928
 1928-1929
 1929-1930
 1930-1931
 1931-1932
 1932-1933
 1933-1934
 1934-1935
 1935-1936
 1936-1937
 1937-1938
 1938-1939
 1939-1940
 1940-1941
 1941-1942
 1942-1943
 1943-1944
 1944-1945
 1945-1946
 1946-1947
 1947-1948
 1948-1949
 1949-1950
 1950-1951
 1951-1952
 1952-1953
 1953-1954
 1954-1955
 1955-1956
 1956-1957
 1957-1958
 1958-1959
 1959-1960
 1960-1961
 1961-1962
 1962-1963
 1963-1964
 1964-1965
 1965-1966
 1966-1967
 1967-1968
 1968-1969
 1969-1970
 1970-1971
 1971-1972
 1972-1973
 1973-1974
 1974-1975
 1975-1976
 1976-1977
 1977-1978
 1978-1979
 1979-1980
 1980-1981
 1981-1982
 1982-1983
 1983-1984
 1984-1985
 1985-1986
 1986-1987
 1987-1988
 1988-1989
 1989-1990
 1990-1991
 1991-1992
 1992-1993
 1993-1994
 1994-1995
 1995-1996
 1996-1997
 1997-1998
 1998-1999
 1999-2000
 2000-2001
 2001-2002
 2002-2003
 2003-2004
 2004-2005
 2005-2006
 2006-2007
 2007-2008
 2008-2009
 2009-2010
 2010-2011
 2011-2012
 2012-2013
 2013-2014
 2014-2015
 2015-2016
 2016-2017
 2017-2018
 2018-2019
 2019-2020
 2020-2021
 2021-2022
 2022-2023
 2023-2024
 2024-2025

1914-15	1915-16	1916-17	1917-18	1918-19	1919-20	1920-21	1921-22	1922-23	1923-24	1924-25	1925-26	1926-27	1927-28	1928-29	1929-30	1930-31	1931-32	1932-33	1933-34	1934-35	1935-36	1936-37	1937-38	1938-39	1939-40	1940-41	1941-42	1942-43	1943-44	1944-45	1945-46	1946-47	1947-48	1948-49	1949-50	1950-51	1951-52	1952-53	1953-54	1954-55	1955-56	1956-57	1957-58	1958-59	1959-60	1960-61	1961-62	1962-63	1963-64	1964-65	1965-66	1966-67	1967-68	1968-69	1969-70	1970-71	1971-72	1972-73	1973-74	1974-75	1975-76	1976-77	1977-78	1978-79	1979-80	1980-81	1981-82	1982-83	1983-84	1984-85	1985-86	1986-87	1987-88	1988-89	1989-90	1990-91	1991-92	1992-93	1993-94	1994-95	1995-96	1996-97	1997-98	1998-99	1999-00	2000-01	2001-02	2002-03	2003-04	2004-05	2005-06	2006-07	2007-08	2008-09	2009-10	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17	2017-18	2018-19	2019-20	2020-21	2021-22	2022-23	2023-24	2024-25
---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

右表ニ示ス如ク長中米ノ砂糖生産ハ第一次世界大戦前四年
 平均即一九〇六年一九一〇年ノ平均蔗糖生産ハ約三九〇兆十
 一ノ戦中最後ノ年一九一八年ニ至リテ増加シ五五ノ一増産
 ノ末又リ本増産ヲ特ニ担當スルハキキハル及英領西印度ナリ
 尚米英領西印度他ノ部ノ例ハ南米及アフリカ等ニ砂糖生産
 ニ急加ナリオーストラリア、ヒバ島、ハワイ、ジャバ、即チ砂糖生産ノ増加
 一生産技術上最モ適合スルト思ハレ地ナリ特ニ情報力ヲ特別ナリ
 益ヲ得ルコト能ハナキ蓋シ今日同邦當時ニ於テ輸送ノ困難ニ
 依リ著シク遠距離ニ船舶輸送ヲ行フコト許サレシレニ依リ唯

1914年、第一次世界大戦の勃発は、砂糖市場に深刻な影響を及ぼした。砂糖は戦時物資として需要が増大し、生産国は輸出制限を課した。この結果、砂糖価格は暴落し、生産者や消費国は大きな被害を受けた。戦後、砂糖市場は徐々に回復したが、戦時中の混乱は長期的な影響を及ぼした。

1914年、第一次世界大戦の勃発は、砂糖市場に深刻な影響を及ぼした。砂糖は戦時物資として需要が増大し、生産国は輸出制限を課した。この結果、砂糖価格は暴落し、生産者や消費国は大きな被害を受けた。戦後、砂糖市場は徐々に回復したが、戦時中の混乱は長期的な影響を及ぼした。

1944年11月 戦時中 砂糖の生産増加 100% 以上 増加

砂糖の生産増加 100% 以上 増加

砂糖の生産増加 100% 以上 増加

砂糖の生産増加 100% 以上 増加

砂糖の生産増加 100% 以上 増加

砂糖の生産増加 100% 以上 増加

砂糖の生産増加 100% 以上 増加

砂糖の生産増加 100% 以上 増加

砂糖の生産増加 100% 以上 増加

砂糖の生産増加 100% 以上 増加

砂糖の生産増加 100% 以上 増加

砂糖の生産増加 100% 以上 増加

困難ナリ

砂糖の生産増加 100% 以上 増加

砂糖の生産増加 100% 以上 増加

砂糖の生産増加 100% 以上 増加

砂糖の生産増加 100% 以上 増加

一、糖の生産量は、1947年、15万トンに達した。これは戦前生産量の約半分に過ぎない。この減少は、戦時中、糖の生産がほぼ完全に停止したためである。戦後、糖の生産は急速に回復したが、戦前水準には遠く及ばない。これは、戦時中の生産設備の破壊、労働力の不足、そして、戦後の食料増産政策による糖の消費量の増加によるものである。

糖の生産量は、戦前、約20万トンに達した。これは、戦時中、糖の生産がほぼ完全に停止したためである。戦後、糖の生産は急速に回復したが、戦前水準には遠く及ばない。これは、戦時中の生産設備の破壊、労働力の不足、そして、戦後の食料増産政策による糖の消費量の増加によるものである。

脂肪

戦時中は、食糧の不足により、食料の配給が厳しくなっていた。このため、食料の生産と消費のバランスが崩れ、食糧不足が深刻化した。戦後、食糧の生産は急速に回復したが、戦前水準には遠く及ばない。これは、戦時中の生産設備の破壊、労働力の不足、そして、戦後の食料増産政策による食糧消費量の増加によるものである。

前記の如く、戦時下の日本は、食糧の自給率を確保し、食糧の消費を抑制し、食糧の貯蔵を促進し、食糧の輸出入を厳格に管理し、食糧の配給を公平に行うことが必要である。

前記の如く、食糧消費量は、戦前より戦時へと増加し、食糧の自給率は低下し、食糧の輸入量は増加した。食糧の消費量は、戦前より戦時へと増加し、食糧の自給率は低下し、食糧の輸入量は増加した。

一九三七年度食糧消費量
 食糧消費量 一〇〇万ト
 食糧自給率 七三%
 食糧輸入量 二七万ト
 食糧貯蔵量 四四万ト
 食糧消費量 一〇〇万ト
 食糧自給率 七三%
 食糧輸入量 二七万ト
 食糧貯蔵量 四四万ト

1914年1月1日 米國の海軍は、英海軍に劣ることを恐るるが故に

1914年1月1日 米國の海軍は、英海軍に劣ることを恐るるが故に

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

艦隻 船隻 1000

一九三七年度の輸出入

石油の輸入は、戦時体制下での資源確保の観点から、アメリカからの輸入に依存するようになった。一方、戦時体制下の日本は、資源の乏しさを補うために、海外からの輸入に依存するようになった。戦時体制下の日本は、資源の乏しさを補うために、海外からの輸入に依存するようになった。

品名	輸入量 (単位)	輸出量 (単位)	純輸入量 (単位)	%
米	132	153	-21	-15.9
小麦	11	11	0	0
大豆	11	11	0	0
砂糖	11	11	0	0
鉄鋼	11	11	0	0
銅	11	11	0	0
石油	11	11	0	0
その他	11	11	0	0
合計	143	153	-10	-7.0

(注)

米穀の輸入と輸出の状況

米穀の輸入と輸出の状況、米穀の輸入と輸出の状況

米穀の輸入と輸出の状況、米穀の輸入と輸出の状況

米穀の輸入と輸出の状況、米穀の輸入と輸出の状況

米穀の輸入と輸出の状況、米穀の輸入と輸出の状況

米穀の輸入	15	10	10
米穀の輸出	15	10	10

米穀の輸入	15	10	10
米穀の輸出	15	10	10

米穀の輸入	15	10	10
米穀の輸出	15	10	10

肉

米穀の輸入と輸出の状況、米穀の輸入と輸出の状況

米穀の輸入と輸出の状況、米穀の輸入と輸出の状況

米穀の輸入と輸出の状況、米穀の輸入と輸出の状況

米穀の輸入と輸出の状況、米穀の輸入と輸出の状況

米穀の輸入と輸出の状況、米穀の輸入と輸出の状況

米穀の輸入と輸出の状況、米穀の輸入と輸出の状況

米穀の輸入と輸出の状況、米穀の輸入と輸出の状況

米穀の輸入と輸出の状況、米穀の輸入と輸出の状況

○米穀の増産
米穀の増産は、わが国が食糧自給率を高めるに最も重要である。従って、米穀の増産に力をつけることは、わが国の経済発展に不可欠である。米穀の増産には、品種改良、水利整備、肥料の増産などが必要である。政府は、米穀の増産を促進するために、品種改良の奨励、水利整備の促進、肥料の増産の奨励などを行っている。また、米穀の増産には、農家の所得向上も必要である。政府は、米穀の増産を促進するために、農家の所得向上を図るために、米穀の増産の奨励、農家の所得向上の促進などを行っている。

○米穀の増産と食糧自給率
米穀の増産は、食糧自給率を高めるに最も重要である。従って、米穀の増産に力をつけることは、わが国の経済発展に不可欠である。米穀の増産には、品種改良、水利整備、肥料の増産などが必要である。政府は、米穀の増産を促進するために、品種改良の奨励、水利整備の促進、肥料の増産の奨励などを行っている。また、米穀の増産には、農家の所得向上も必要である。政府は、米穀の増産を促進するために、農家の所得向上を図るために、米穀の増産の奨励、農家の所得向上の促進などを行っている。

○米穀の増産と食糧自給率
米穀の増産は、食糧自給率を高めるに最も重要である。従って、米穀の増産に力をつけることは、わが国の経済発展に不可欠である。米穀の増産には、品種改良、水利整備、肥料の増産などが必要である。政府は、米穀の増産を促進するために、品種改良の奨励、水利整備の促進、肥料の増産の奨励などを行っている。また、米穀の増産には、農家の所得向上も必要である。政府は、米穀の増産を促進するために、農家の所得向上を図るために、米穀の増産の奨励、農家の所得向上の促進などを行っている。

第一 1905年 日清戦争の終結と朝鮮半島の植民地化
 第二 1905年 日清戦争の終結と朝鮮半島の植民地化
 第三 1905年 日清戦争の終結と朝鮮半島の植民地化
 第四 1905年 日清戦争の終結と朝鮮半島の植民地化
 第五 1905年 日清戦争の終結と朝鮮半島の植民地化
 第六 1905年 日清戦争の終結と朝鮮半島の植民地化
 第七 1905年 日清戦争の終結と朝鮮半島の植民地化
 第八 1905年 日清戦争の終結と朝鮮半島の植民地化
 第九 1905年 日清戦争の終結と朝鮮半島の植民地化
 第十 1905年 日清戦争の終結と朝鮮半島の植民地化

一 昔國下の格差の二一西者経済的結合の益取書密トナリテ
 二 莫大の利益を得たり一 金額亦ナリト人 一 平方寸計量 一 〇名ニモ満
 三 夫レノ巨額を得たりト人 一 金額亦ナリト人 一 平方寸計量 一 〇名ニモ満
 四 耕田種ノ方面ニ在リテ 昔國ノ格差 大抵 比レ遙ニ有利ナ
 五 故ニ一

上述数字ハ此等農業可耕地が耕作し盡されたりトシテハ
 僅ニ耕作せしむるニシテ 問題トシテトナリトシテハ 廣漠ナル
 土壤ニ高耕作ヲシ得ルニカキテ 所謂農業ノ影ニ出スルニテ 莫大
 ナル豫備ヲ有ス 金迄未耕ノ荒地ナリトナリトシテハ 如何ニテ 廣漠

大豆	100kg	1.4	1.4	1.4
小麦	100kg	1.1	1.1	1.1
米	100kg	1.1	1.1	1.1
...

大豆、小麦、米、...

大豆、小麦、米、...

大豆、小麦、米、...

大豆	100kg	1.4	1.4	1.4
小麦	100kg	1.1	1.1	1.1
米	100kg	1.1	1.1	1.1
...

一九四二年対上ノ各品類ニ涉リ著シク生産増加ヲ見ル
 而シテ一九四三年対上ノ一九四三年ニ比シ更ニ顕著ナル生産増加ヲ豫

品名	1942年	1943年	1944年	1945年
乾酪	0.11	0.11	0.20	約0.25
粉乳	0.14	0.17	0.27	1
牛肉	0.35	0.41	0.44	0.47
豚肉	0.39	0.33	0.40	0.47
豚脂	0.9	0.9	1.1	1.5
羊肉	0.4	0.4	0.4	0.5
屠殺計画	100万頭	100万頭	100万頭	100万頭
牛	1	2.5	2.5	1
豚	1	7.5	7.5	1
羊	1	1.5	1.5	1
鶏	1	5.8	5.8	700以上
七面鳥	1	3.5	3.5	400以上

(5)

品名	1942年	1943年	1944年	1945年
小麦	100kg	1.20	1.20	1.10
大豆	1	0.20	0.20	1.10
米	1	0.1	0.1	0.1
油	1	0.1	0.1	0.1
糖	1	0.1	0.1	0.1
其他	1	0.1	0.1	0.1

(6)

大正期に於ては、朝鮮半島の農業と工業の発展は、日本資本の流入と、日本の技術的援助に依りて行はれた。日本資本の流入は、朝鮮半島の農業と工業の発展に、重要な役割を演じた。日本の技術的援助は、朝鮮半島の農業と工業の発展に、重要な役割を演じた。日本資本の流入と、日本の技術的援助は、朝鮮半島の農業と工業の発展に、重要な役割を演じた。日本資本の流入と、日本の技術的援助は、朝鮮半島の農業と工業の発展に、重要な役割を演じた。

新米國の農業再整備計画の遂行可能性の問題は、以上論じ
 如クシテ米國の因ニ於テスラ致ニセニ^{可成}以懷疑の聲高ク特ニ勞働
 カ不足ニ因シ指播マラレアリ最モ歎者ナルハ比較的賃人銀低農
 作^{準備}ヨリ南軍備以來誘惹的高級賃人銀得ラル工業界ハト
 大群ヲテシテ^{農村界}農林ニアル事實ナリ一八九九年ヨリ一九四二年迄一三三
 コ方法ニテ農業生産ヲ^{農村界}離シテ^{農村界}農林ニアル事實ナリ一八九九年ヨリ一九四二年迄一三三
 ヲラレアリ^{農村界}農林ニアル事實ナリ一八九九年ヨリ一九四二年迄一三三
 又^{農村界}農林ニアル事實ナリ一八九九年ヨリ一九四二年迄一三三
 又^{農村界}農林ニアル事實ナリ一八九九年ヨリ一九四二年迄一三三
 又^{農村界}農林ニアル事實ナリ一八九九年ヨリ一九四二年迄一三三

人造肥料の不足は、その肥料不足は、多量に肥料を必要とする
 農業甲上への輸入を減少させることにより
 更に問題として、カルシウムと農産物の価格の下落による農産物価格の
 斯く強度の生産増加は、多量に必要とする。農業の欠乏（即ち農業の
 高品質の上、農業生産物の価格の下落による利益の減少）は、不利な開
 かつ、その結果として、農業生産物の価格の下落による利益の減少は、
 更に工業生産物の価格の下落による利益の減少による。その結果、
 不利な関係は、土地の回復と減産の法則に従って、農業生産物の価格の
 集約に伴って、利益の減少は、多量に必要とする。一九二四年、世界大戦の間、利益の減少

人造肥料の不足は、その肥料不足は、多量に肥料を必要とする
 農業甲上への輸入を減少させることにより
 更に問題として、カルシウムと農産物の価格の下落による農産物価格の
 斯く強度の生産増加は、多量に必要とする。農業の欠乏（即ち農業の
 高品質の上、農業生産物の価格の下落による利益の減少）は、不利な開
 かつ、その結果として、農業生産物の価格の下落による利益の減少は、
 更に工業生産物の価格の下落による利益の減少による。その結果、
 不利な関係は、土地の回復と減産の法則に従って、農業生産物の価格の
 集約に伴って、利益の減少は、多量に必要とする。一九二四年、世界大戦の間、利益の減少

Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, consisting of several lines of characters.

①

